

平成 29 年度 マレーシア春期英語研修

都市教養学部経営学系経済コース 3年 日高魁暉

はじめに

私は今回、2月25日から3月25日までのマレーシア春期英語研修に参加した。マレーシア春期英語研修では平日には英語の授業があり、週末には現地で日本語を学習している学生との交流会・マレーシア現地の家庭へのホームステイ・マラッカ旅行等のプログラムがあった。これから現地での生活事情・授業についての2つの項目について書いていこうと思う。

現地の生活事情

まず、皆さんがもっとも気になっている現地の生活事情について述べていこうと思う。現地の治安は思っていたより良かった。もちろん、日本のようにはいかないが貴重品は常に身に付ける・夜間にむやみに外出しないとといった最低限の防犯意識をもっていなければそうそう危ない目にあうことはないだろう。また、なにより現地のマレーシア人が多民族国家ゆえであるのかはわからないが自分の拙い英語でも聞き取ろうと努力してくれ親切に答えてくれる。欠点を言えば、マレーシア人は知らない人の相手もしてくれるほどのんびりしているので日本のようなサービスを期待してはいけない。例えば、授業に行く際にバスに乗ると5~10分ほどで学校に着けるのだがバスが遅れてぜんぜん来ないので二日目から20分ほどかけて歩いて登校していた。他にも日々の生活で妥協しなければならないことは寮の設備に期待しないことだ。部屋によって差はあったが一部の部屋にはベッドにマットレスのなかった。(後日、マレーシアに別のプログラムで寮にいた日本人によると寮の窓口に言えば用意してくれたそうなのだが…)ほかにエアコンがなく天井に大きな扇風機がついていたが夜は熱く、音がうるさくて寝づらかった。しかし、まあ1週間もすれば慣れるので心づもりをしていけば大丈夫だろう。食事については寮の学食で取ることがもっとも多かった。学食ではすべてのメニューが200円程度で食べることができ、唐辛子の大量に入った料理にさえ気を付ければ安く美味しい料理を食べることができる。ただし、マレーシアの料理は普通の料理でも大量の香辛料が含まれているので日本の辛口がマレーシアの普通または甘口に当たる。おそらく、香辛料で一度はお腹を壊すので胃腸薬を持っていくことをお勧めする。

授業について

英語の授業は平日にあり、週二日は三コマあって3時ごろまで週三日は二コマで12時までで始業時間は8:30だった。(ここでもマレーシアの文化で先生が5分遅れてきて10分遅

く始めるのが常だった) 授業の構成としてはライティング&リーディングの授業が 1, 3 コマ目でリスニング&スピーキングの授業が 2 コマ目というのが基本構成であった。私が配属されたクラスは IntermediateA で三つのクラス分けの中で真ん中のレベルのクラスだった。難易度としてはライティング&リーディングの授業は普通でリスニングとスピーキングの授業は難だった。リーディングは内容としては難しくはないが説明がすべて英語なので慣れるまでは苦労した。ライティングは一般的なアカデミックライティングという首都大学の人文の英作文で勉強する内容とほぼ同じだそう。 (英作文の授業を取った別の日本人によると) しかし、私としては学んでいたことがない内容であり先生が懇切丁寧な説明をしてくださったこともあり大変勉強になった。書き方を学ぶだけのことなので一番成果が感じられやすく卒業論文を書く際にも生かすことができるのでマレーシアで一か月集中的に学ぶのもいいだろう。リスニングとスピーキングについては正直に言ってハードルが高かった。先生が助け舟を出してくれなければ乗り切れなかったと思う。自分よりも英語のできる他の日本人学生も外国人との差を実感していた。自分のスピーキング力とリスニング力のなさを知るにはいい機会になるかもしれない。

最後に

確かに日本の生活環境と比べると様々な不便もあった。しかし、マレーシアでの研修を終えて振り返るといってよかったと言えた。マレーシアでの経験は将来の人生の糧になると思う。マレーシア研修に興味のある皆さんの参考になったら幸いである。